

Koryu

Ritto International Friendship Association

平成12年度 (2000年度) 総会終える



猪飼光三郎会長

昨年5月1日にRIFA設立総会が開催されて以降、会員の皆様の暖かいご支援、ご協力に支えられ、異文化交流サロン、パーミンナム市・衝南市からの使節団の受入、在住外国人生活相談、日本語講座、語学講座、会報の発行等様々な事業を実施することができました。

激動する世界情勢の中にあって、私たちが国際社会の中で諸外国と共に歩んでいくためには、一人一人のこのような国際交流・国際協力活動が不可欠ではないでしょうか。

設立1周年を迎えた本年も、各委員会委員やボランティアの方々をはじめとする会員の皆様方の英知と昨年度の経験、総会で出された多くの要望等を

踏まえRIFA事業をより一層充実させてまいりますので、昨年同様のご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



総会の様子

去る4月23日(土)午前10時より、猪飼峯隆栗東町長、井之口秀行栗東町議会議長のお二人を来賓としてお迎えし、平成12年度RIFA総会が約50人の会員の出席のもと、ウイングプラザ研修室で開催されました。議長には川那達亮さんが選出され、平成11年度の事業並びに収支決算が報告され、また、平成12年度事業計画並びに収支予算等が慎重に審議され、原案通り承認されました。多くの要望等も出され活発な総会でした。



懇談会の様子

総会終了時には、アメリカ、フランス、フィリピン、中国、ペルー、ブラジルの方々次々と会場に到着、パーティの始まる前からすでに会場は楽しい語らいの場となりました。乾杯の後、在住外国人の方々を紹介され、お一人ずつ短いスピーチをいただきました。真摯な話しぶりや、明るくユーモラスなスピーチに会場が和みました。蛇やら蛙になる(?)ゲームでは、大人も子供も夢中で相手を見つけては、「ジャンケンポン!」「アーッ!」とにぎやかな笑い声があちらこちらで聞かれました。

衡陽市友好代表団来町 (3月21日～3月27日)



团员左から

| | |
|-----|---------------|
| 李 静 | 衡阳红五环文化广告公司经理 |
| 周月兰 | 衡阳市船山宾馆总经理 |
| 赵 芳 | 衡阳市外事侨务办公室副科长 |
| 刘照月 | 衡阳市丽城宾馆副总经理 |
| 刘志勇 | 衡阳县东方宾馆总经理 |
| 秦振衡 | 衡阳市财政局科长 |
| 周千喜 | 衡南县外事办主任 |

(宿泊先の森遊館前にて)



- 3月21日 来町・打ち合わせ
- 22日 ホテル視察(2件)
滋賀県庁表敬訪問
琵琶湖視察
- 23日 さきら・歴史民俗博物館視察
栗東町表敬訪問
びわこ博物館視察
歓迎レセプション
- 24日 大阪市内視察
- 25日 京都市内視察
東京へ移動
- 26日 東京都内視察
- 27日 帰 国



歓迎レセプションの様子



3月21日(火)～27日(月)の7日間、衡陽市から7名の団員が来町されました。これは、日中国交回復20周年にあたる1992年に衡陽市と栗東町が友好都市締結以来、毎年隔年で使節団の派遣・受入を行っている事業で、今回で4回目の使節団の受入となりました。(もちろん、協会ができてからは初めての受入でした。)

ホテル視察・町内視察・県外視察等、いずれの視察先でも興味深そうに見ておられ予定時間もオーバー気味。また数々の質問を訪問先の説明者にされていました。

来町3日目の23日(木)は、交流事業委員会が中心となって歓迎レセプションを開催しました。会場は7名の団員と交流しようと約60名が参加。通訳ボランティアの方々や筆談等を通じて多くの方々から団員と楽しく交流をされました。また、中国語講座の受講生は、早速学習中の中国語で交流をされていました。

約1時間半の短い時間のレセプションでしたが、団員と楽しく交流ができ、お互い友好の絆を深めることができたのではないのでしょうか。



史云香

中国は遼寧省から来られ、RIFAの中国語講師で日本語教室の生徒でもある史云香さんが、日本でも端午の節句にはお店に出る「ちまき」について著述されました。

端午節のちまき

【端午節】は、現在中国全国的に残された3つの民間祭のひとつです。旧暦のお正月、8月15日の仲秋節、そしてこの端午節です。

古人は12ヵ月を十二支に合わせ、お正月を【寅の月】、5月を【午の月】としました。【端】は初めての意味で、仲夏5月5日の祭は月の初め午の日ということで【端午節】と名付けられました。また5日は【午日】ともいうので【端午節】は【重午節】とも言われます。また古人は【午時】を【陽辰】（良き日の意）とも言ったので【端陽節】とも言われます。

【端午節】の起源についてはさまざまな説がありますが、多くの人は楚国の愛国詩人屈原の記念活動から広がった説を信じています。公元前（紀元前）、戦国の後半頃、「7国争雄」という時代がありました。齊、楚、燕、韓、趙、魏、秦の7つの国が争い、なかでも秦という国は次第に強くなり他の6つの国を併合、いまにも中原（黄河流域付近）を統一するかに見えました。

官吏で、中国最初の詩人といわれる楚国の屈原は「漁父抗秦」を主張しましたが、楚の懷王は聞き入れませんでした。結局、懷王は帳簿に騙されて秦国で監禁され、悔しい思いを抱えたままその地で果てました。楚の国でそれを知った屈原は悲嘆にくれましたが、今こそ国を救う時だと信じ、現任の頃襄王に忠告し続けました。この王も屈原の言葉を聞き入れず、それどころか、貴族の讒言を信じて、屈原を免職追放処分にしてしまいました。

秦はそのタイミングをつかみ、楚国へ侵入しました。屈原が追放生活を強いられていた長い期間に楚国の政治は乱れ、ついに楚国は秦軍の占領するところとなりました。屈原の目にしたものはおびただしい戦死体。耳にしたものは飢えるこどもたちの泣き声。国を救うことも、人々の命を救うこともできなかった屈原は、人々の役に立たないまま生き長らえることを嘆き、ついに、プアロアチャンという河に身を投げました。漁をしていた人々は助けようとしたが、遺体さえも見つけられませんでした。ある男が自分の弁当の「ちまき」と卵を河に投げました。河の中の魚たちがこれを食べた屈原の死体を食べないようにとの願いでした。これを見た人々が次々に食物を河に投げ入れました。ある医者は雄黄酒という酒を注ぎこみました。水獣たちを酔わせて屈原の死体を食べさせないようにしたのです。公元前（紀元前）280年の「5月5日」のことでした。

以来、楚国の人々は屈原の愛国精神を忘れないようにと、毎年5月5日には必ずちまきを作って河に投げ、屈原を弔びます。日常の食物のちまきも、この日は特別な使命を担って【端午節】の主役となりました。民族融合に伴い、こういった風習が全土に広がり、中国全民族の祭となりました。

読者コラムにご投稿ください

自国の文化をよく知り、他国の人々に紹介する、他国の人々もそれについて興味をもって聴き入る。自国とは異なる文化を知る、共鳴する、感銘を受けるなど、いろいろな理解のしかたがあることでしょう。このコラムでは、そういった異文化理解に向けて、読者の皆様の原稿を掲載したいと思えます。エッセイ、紀行文、詩、短歌や俳句のようなものでも何でも結構です。どしどしお寄せください。採用分には薄謝をさしあげます。

郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・TEL/FAXを添えて事務局までお送りください。なお匿名を希望される方はその旨お書き添え下さい。